

「令和3年度農林水産関係補正予算」の概要

新型コロナウイルス感染症の影響対策や8月の大雨等災害への支援などを盛り込んだ令和3年度農林水産関係補正予算が11月26日に閣議決定されました。

補正予算の重点事項を以下の通りお知らせします。

【令和3年度農林水産関係補正予算の概要（総額：8,795億円）】

1 「総合的な TPP 等関連政策大綱」に基づく施策の実施

- ① 2030 年輸出 5 兆円目標の実現に向けた「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」の実施
- ② 国際競争力のある産地イノベーションの促進
- ③ 畜産・酪農収益力強化総合プロジェクトの推進
- ④ 次世代を担う経営感覚に優れた担い手の育成
- ⑤ 合板・製材・構造用集成材等の木材製品の国際競争力の強化
- ⑥ 持続可能な収益性の高い操業体制への転換

2 米の需給及び価格の安定に向けた対策の実施

3 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた経済支援と食品産業の強化

4 ポストコロナ社会を見据えた農林水産業の推進

- ① スマート農林水産業の社会実装の加速化
- ② eMAFF 等による DX の加速
- ③ 環境負荷軽減に資する「みどりの食料システム戦略」の実現に向けた政策の推進
- ④ 家畜伝染病、病害虫の発生予防対策等の強化
- ⑤ 農林水産業の生産性向上、農山漁村の活性化等の推進

5 防災・減災、国土強靱化と災害復旧等の推進

- ① 防災・減災、国土強靱化の推進
- ② 令和3年8月の大雨等の災害からの復旧・復興

※これらの内容等については、農林水産省ホームページの以下のアドレスをご覧ください。

<https://www.maff.go.jp/j/budget/r3hosei.html>

彩の国 農業人

～愛される狭山茶づくりに日々精進～

よこた たかひろ
横田 貴弘さん

狭山茶の伝統を残し続けるため、昔ながらの技術を磨くとともに、圃場管理、収穫、加工、販売まで行う横田園の若き6代目、横田貴弘さんをご紹介します。

狭山市で100年続くお茶の「横田園」の横田貴弘さんは、大学に進学した当初、家業を継ぐことは考えていませんでしたが、大学在籍中に農業サークルの活動等を通じ、地元を大切にする近隣農家の仲間や家業に情熱を注ぐ人達に感化され、家業を継ぐ決意をしました。

大学卒業後直ぐに農研機構果樹茶業研究部門金谷茶業研究拠点の茶業研修を2年間受講し、お茶の専門的な勉強をした後、7年にわたり父と祖父の指導・助言を受けながら横田園の栽培手法や製茶工程の違いによる味の違いを勉強し、新たなお茶の魅力を求め日々研鑽に励んでいます。

狭山茶は、寒い冬を乗り越えることにより深まるコクと「狭山火入れ」という独特の技術から、甘くて濃厚な味わいが生まれます。横田さんは、茶畑への堆肥投入や有機肥料を使用した土づくり、茶葉本来の特徴が出るように茶畑への被覆をしない栽培を積極的に取り入れています。

また、製茶行程においても萎凋（いちょう＝摘採後のお茶を放置し萎れさせる行程）を積極的に取り入れ、味や香り、余韻が強く感じられるお茶づくりを行っています。



横田園の6代目、横田貴弘さん

今年から萎凋の魅力を引き出す製法で、製茶工程の精揉（せいじゅう＝茶葉の乾燥を進めながら圧をかけて一定方向にだけ揉みこみ、茶葉特有の細長い形に整える工程）を省略し、丸みのあるお茶づくりを始めました。通常の棒状のお茶ではなく、丸みのある甘い香味と渋みが少ない柔らかな口当たりが特徴です。このお茶は丸い形状から「まがたま」という名称で販売を始めています。

また、お茶以外にも茶葉を活用したクッキーやシフォンケーキ等のお菓子の製造販売も手掛けています。お菓子は、自社店舗以外にも「あぐれっしゅげんき村、食の駅所沢店」でも販売しており、クックパッドマートを通じて宅配も行っています。

コロナ禍により客足にも影響がありましたが、「狭山茶は小規模で特徴のあるお茶づくりができるので、狭山茶の特徴を活かすよう、自分で作り方を考えたお茶づくりでお茶の魅力を発信していきたい。」と貴弘さんは熱く語ってくれました。



手摘みの茶葉

編集：関東農政局 埼玉県拠点

〒330-9722 さいたま市中央区新都心 2-1 さいたま新都心合同庁舎 2号館

TEL 048-740-5835 FAX 048-601-0510

<関東農政局HP> <http://www.maff.go.jp/kanto/>

